

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 西区
学校名 明治小学校
学校長名 中山 吉一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・明治小学校では、第6学年 82名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全教科で平均を上回る結果となった。国語では、平均正答数は9.5問（14問中）で、全国平均（9.4問）や市平均（9.2問）を上回り、正答率も68%と全国平均（66.8%）より高く、読解力や語彙力がしっかりと身についていることがうかがえる。算数では、10.8問（16問中）正答し、正答率は67%。これは全国・市平均（ともに約9.2～9.3問、正答率58%）を大きく上回っており、計算力や論理的思考力が身についていることがうかがわれる。理科でも、10.3問（17問中）正答し、正答率は60%。全国平均（57.1%）や市平均（55%）より高く、観察力や科学的理知がしっかりと育まれている結果となった。各教科で全国・市平均を上回る成果を出す結果となったが、無解答率も全国平均や市平均よりも高い点は今後の課題である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕全国平均、大阪市平均よりも高い結果となった。特に「情報の扱い方」「言語文化の理解」で全国平均を大きく上回り、論理的思考力や文化的読解力が育っていることがわかる。一方で、「書くこと」「読むこと」ではやや課題が見られ、今後は、短文作成や構成指導、読書対話、話す→書く活動などを通じて、表現力と読解力の育成が必要と感じる。

〔算数〕全領域で全国平均、大阪市平均を上回り、特に「変化と関係」「図形」で高得点を獲得する結果となった。一方、「数と計算」「知識・技能」は基礎力の定着に改善の余地があります。今後は計算力の強化、知識の定着支援、実生活との接続を意識した応用力育成が必要と感じる。

〔理科〕全国平均・大阪市平均を上回る結果となった。特に「地球」「粒子」領域の観点で高得点を獲得した。一方、「エネルギー」領域の理解や「知識・技能」の定着に課題があり、基礎的な物理概念の補強が今後の課題となる。

質問調査より

児童質問調査においては、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目で大阪市全体ならびに全国平均を肯定的回答で上回る結果となった。しかし、「将来の夢や目標を持ってていますか」の質問に対しては大阪市、全国と比べても肯定的回答が低く、25%近い児童が将来の夢や目標を持ち切れていない結果となった。自分によいところがあり、進んで人助けも出来ている児童が多いので、興味のあることや好きなことを見つけることから始めるなどしていきたい。学級の友達との話し合い活動では、大阪市、全国と比べて5ポイントほど低い結果となった。先生がファシリテーターとなって話し合いの進め方などを意識して授業改善に取り組んでいきたい。

今後の取組(アクションプラン)

本年度の学力調査では、国語・算数・理科の全教科で全国平均および市平均を上回る成果を収めた。国語では読解力や語彙力が育まれており、特に「情報の扱い方」「言語文化の理解」で高い正答率を示した。一方で「書くこと」「読むこと」には課題があり、今後は表現力の育成に力を入れていく。算数では「変化と関係」「図形」で高得点を獲得し、論理的思考力が育っているが、「数と計算」など基礎力の定着には改善の余地がある。理科では「地球」「粒子」領域で成果が見られ、観察力や科学的理知が育っているが、「エネルギー」領域の理解や知識の定着に課題が残る。全体として無解答率が高い傾向も見られ、今後はあきらめずに粘り強くテストに向き合う姿勢の育成にも努めていく。

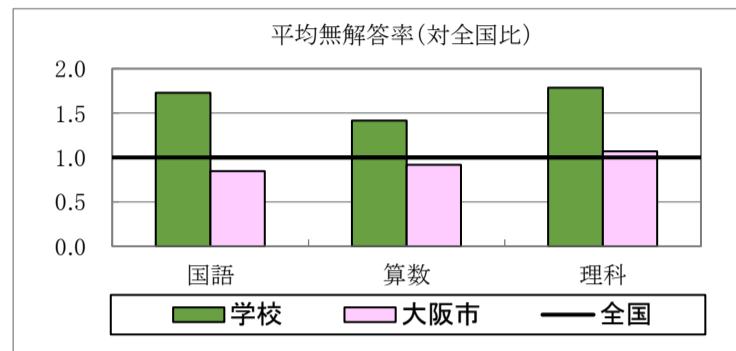
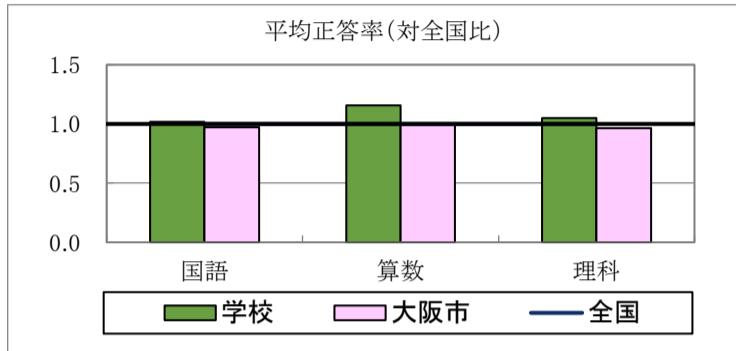
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	68	67	60
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.7	5.1	5.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



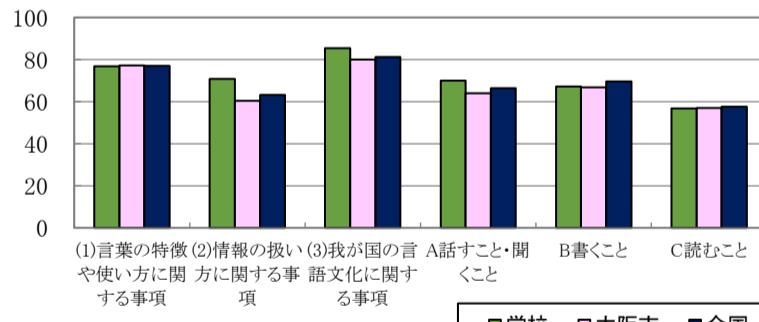
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	76.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	70.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	85.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	67.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	56.7	56.9	57.5

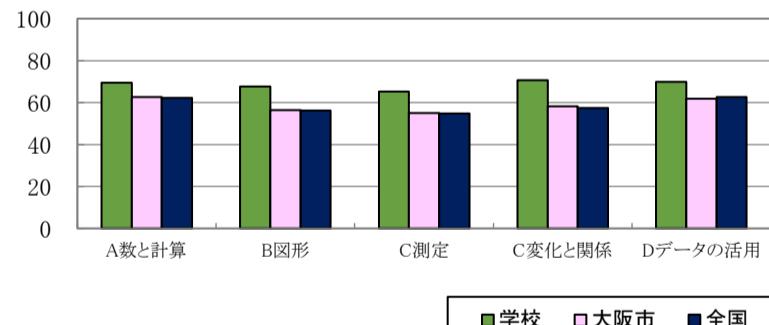
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	69.5	62.7	62.3
B 図形	4	67.7	56.4	56.2
C 測定	2	65.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	70.7	58.2	57.5
D データの活用	5	69.8	61.9	62.6

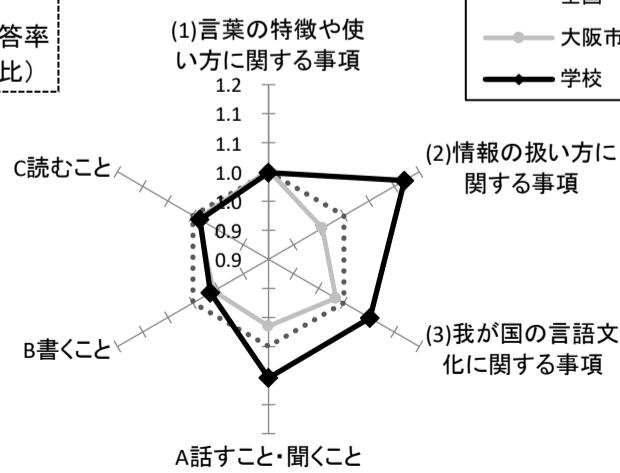
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



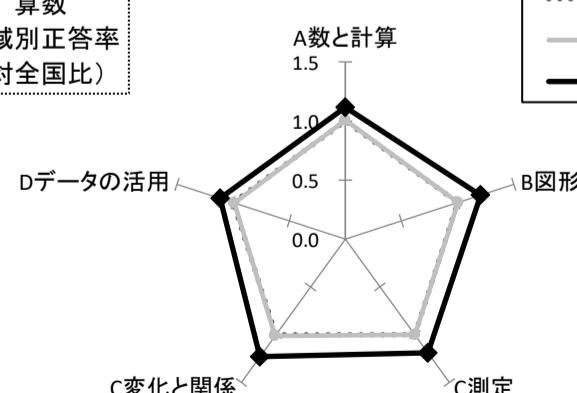
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

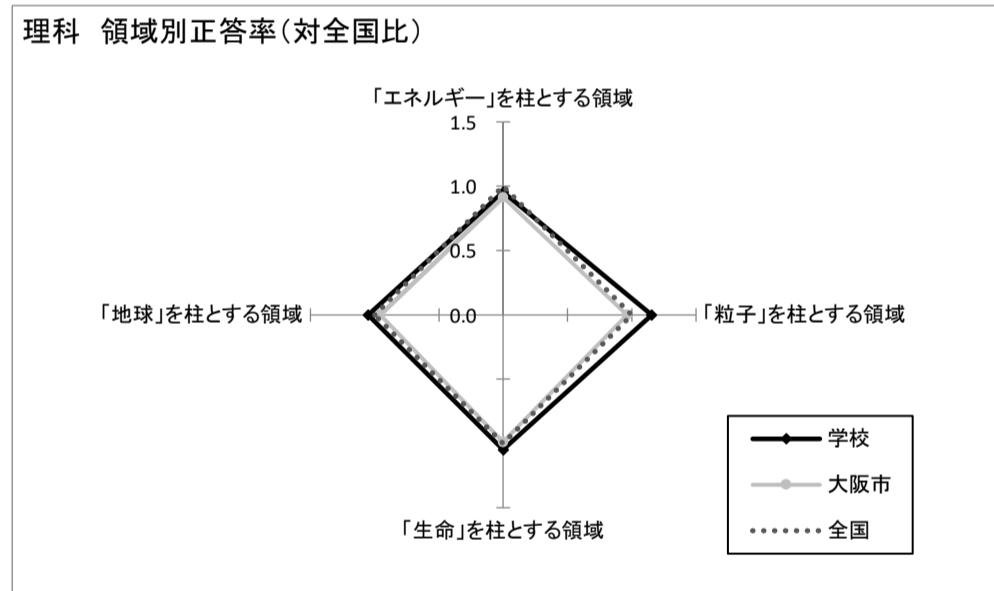
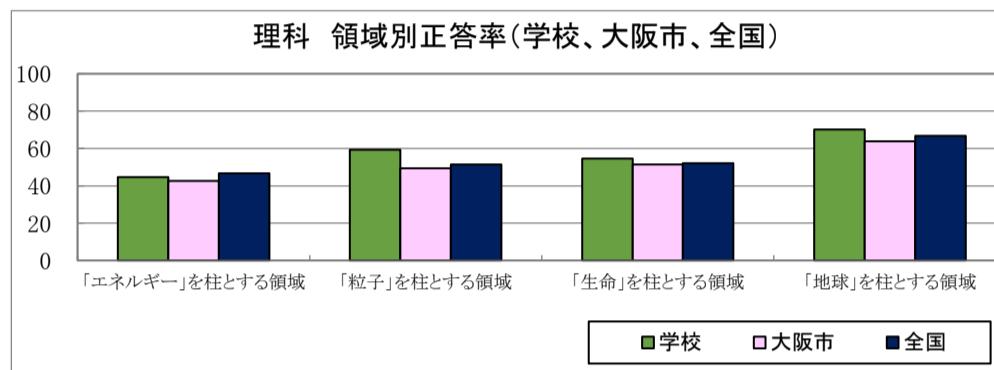


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	44.6	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	59.4	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	54.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	70.1	63.8	66.7



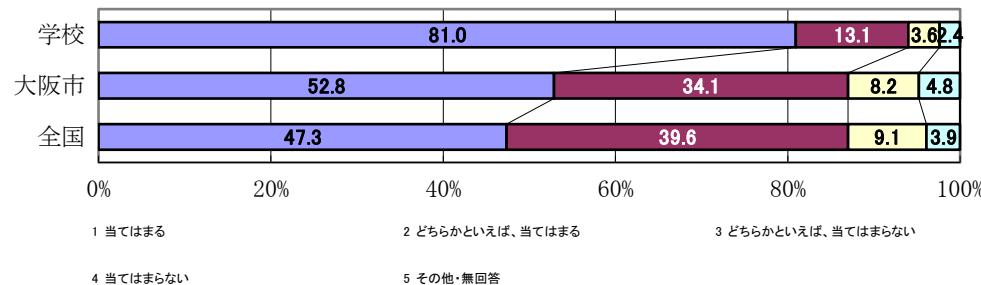
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

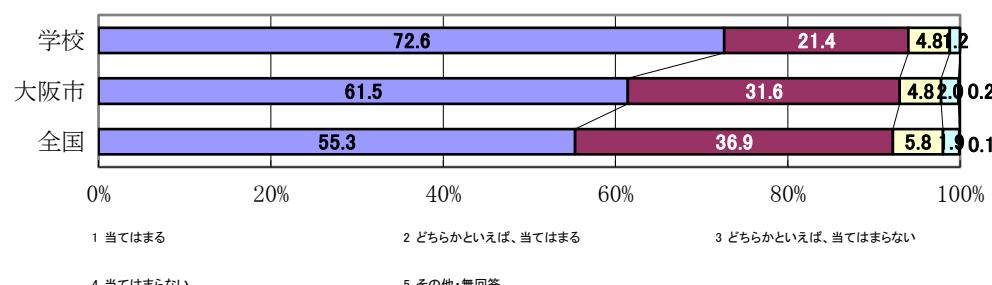
5

自分には、よいところがあると思いますか



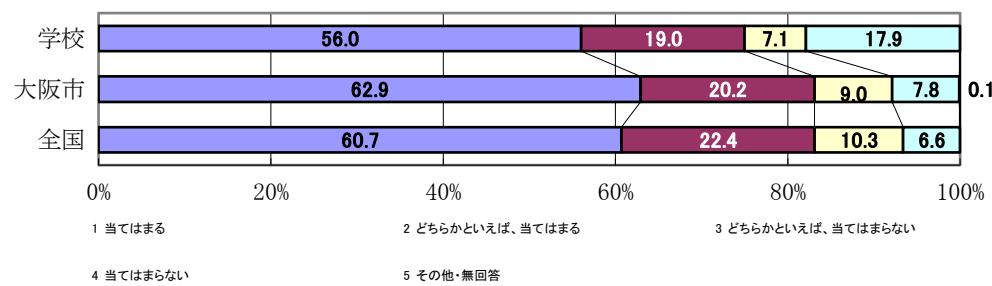
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



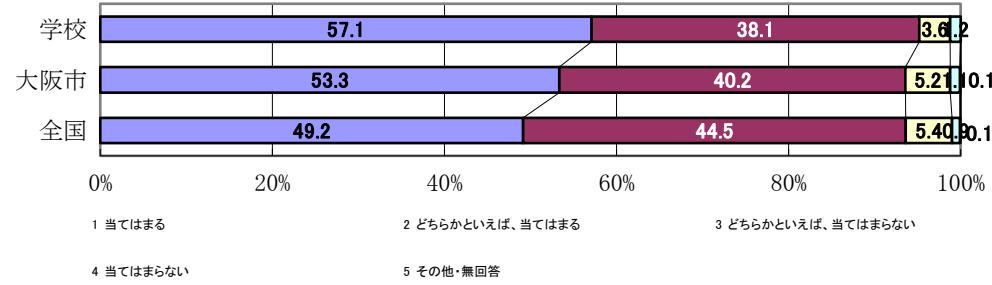
7

将来の夢や目標を持っていますか



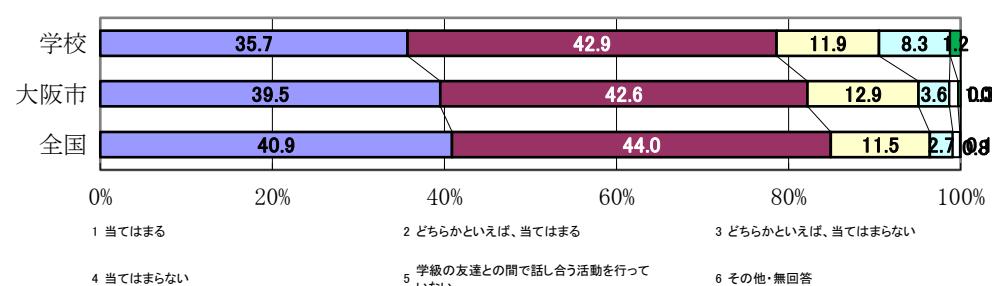
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



学校質問より

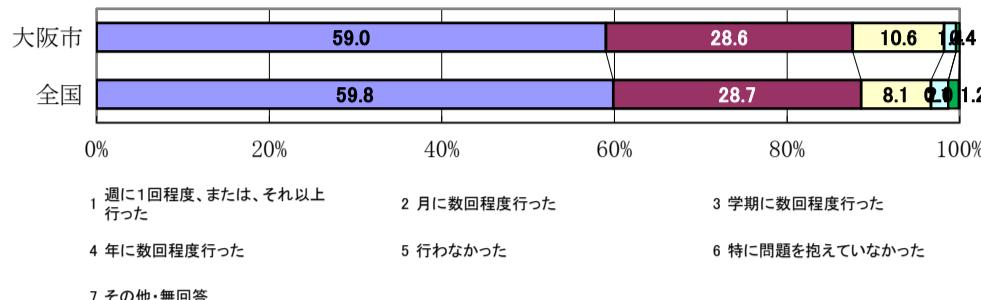
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

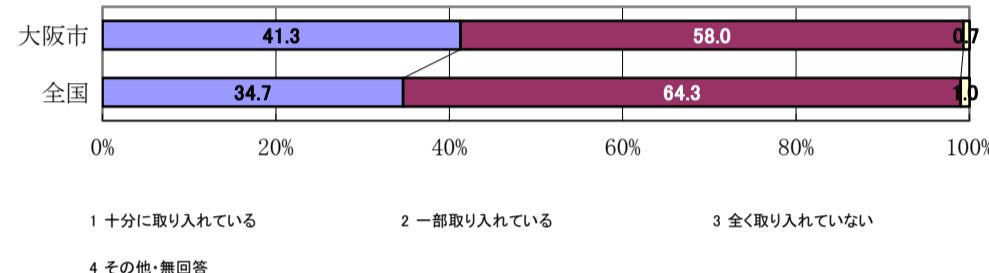
学校 「月に数回程度行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

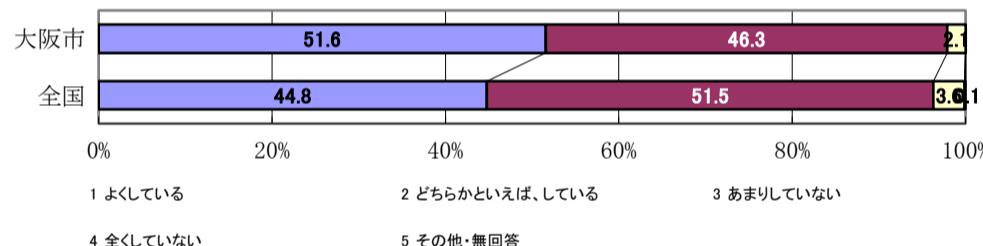
学校 「一部取り入れている」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

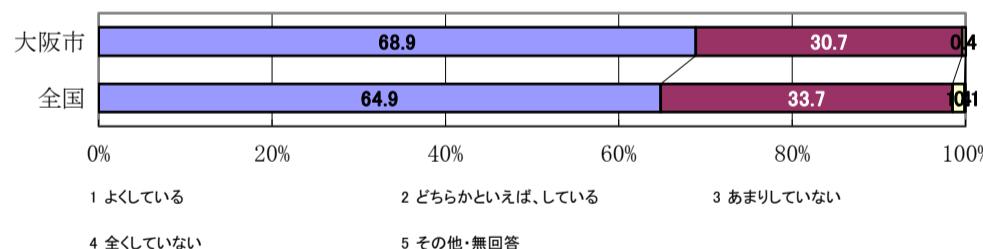
学校 「どちらかといえば、している」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

